

コロナに負けるな！
元気・根気・やる気
楠橋小学校

楠橋

= 共 育 =

学校だより第18号
令和2年7月31日

北九州市立楠橋小学校
校長 戸田 堅

平和を願う会

7月31日（金）に全校で平和を願う会を行いました。この会は、戦争の悲惨さや生命の大切さに気付かせ、平和の尊さを考えさせるとともに平和を願う心を育てることを目的としています。今回は「嘉代子桜・親子桜」を題材として学習しました。「嘉代子桜・親子桜」は本校の自然観察園に植樹しています。

〈「嘉代子桜・親子桜」について〉

今から75年前の昭和20年8月9日、長崎市に原爆が投下され、一瞬にして、町は壊滅的な被害を受け、数万人の方が亡くなりました。

原爆投下時、林嘉代子さん（当時15歳。長崎県立高等女学校4年生）は、爆心地から500メートルほどしかはなれていない城山小学校（当時の城山国民学校）で学徒報国隊員の一人として働いており、他の多くの女学生とともに亡くなりました。

戦後、嘉代子さんの母親の津恵さんは、娘と一緒に亡くなった女学生の慰霊と平和への願いを込めて同小学校に桜の苗木を植えました。その桜は「嘉代子桜」と名付けられ、今は、大木となり、毎春桜の花を咲かせています（植樹された50本のうち、現在6本が残っています）。

長崎市に投下された原爆は、当初、旧小倉市にあった小倉陸軍造兵廠（現在の小倉北区にあった兵器工場）を目標としていました。しかし、当日の上空が視界不良であったため、第二目標の長崎市に変更され、原爆が投下されたのです。

このことを顧み、北九州市は、平和への願いが込められた「嘉代子桜」に由来する桜を「嘉代子桜・親子桜」と名付け、広く北九州市内に植樹を行い、市民の皆さんに原爆や戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていくこととしました。

全校放送の後、教室で楠橋小の先生方が編集したビデオを見ました。



ビデオを見た後に、担任の先生からのお話を聞き、実際に「佳代子桜・親子桜」を見に行きました。



この小さな桜の木が、「嘉代子桜・親子桜」です。